

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
 和歌山第一生命ビル4階
 TEL073(431)1411
 FAX073(433)0650
 wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026
			073(423)9291
			0120-468012

【広告問い合わせ】
 【購読問い合わせ】

マーク矢崎 12

熊野古道

みちのくき記

26

JR阪和線長滝駅 大阪府内の国道26号沿(泉佐野市)を下車し、いに熊野街道を山中溪



山中宿(阪南市山中溪にて)

大阪最後の宿場町へ

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

駅(阪南市)まで散策した。

まず府道248号沿いの蟻通神社(泉佐野市)に参拝。村の産土神社らしい構えだ。

滝西交差点を左折して狭い熊野街道を進む

と奥家(旧庄屋)住宅に出合う。奥家は和泉

国の有力な国人で江戸時代には樫井の庄屋(農民)を代々務めた

という。住宅は江戸時代の建造。どっしり

した造りで国の重要文化財だ。近くには塙団右衛門直之と淡輪六郎兵衛重正の墓がある。二人とも1615年の大坂の陣で豊臣方の武将として、徳川方の和歌山城主・浅野長

の麓に古戦場の記念碑があるが、なぜかもの

悲しい。府道64号を南下して、海会寺跡・一岡神社で一服した後、

和泉砂川駅近くの信達市場(泉南市)に着く。

熊野詣でがにぎわった中世は、上皇の宿泊所だった。元禄時代(1688~1704年)以降は、紀州の殿様の参勤交代の本陣が置かれて人が集まり、市が立ち始めた。商売繁盛

両脇に本陣跡や庄屋で、春は大勢の花見客が訪れる。山中溪駅か

り、鬼瓦や、門構え、広い庭などに往時の繁栄がうかがえた。山中

宿の入り口の石碑に「紀州街道」の文字が深く刻まれていた。駅

前の説明板には「山中宿は山中川の溪流地にあつて、和泉と紀州を結ぶ古道が通つており、古くは南海道と呼ばれ、神武天皇の御東征の道であつた。平

で、春は大勢の花見客が訪れる。山中溪駅から約1キロ離れた泉境に、山中川に架かる境橋がある。「1857年土佐藩士広井大六が同藩士と口論の末、切り捨てられた。子供の岩之助は仇討ちの免許状を持って、仇のいる紀州藩に国払いしてもらい、境橋の泉州側で待ち受けて、見事仇討ちを果たした」と、日本

本で許された最後の仇討

祈り、交易、戦い、交流の道

晟の軍と榎井川で交戦。先陣争いをして討ち死にした。それでも武名は高く、戦の地で弔われ、古道のここに眠っている。この合戦は豊臣方の敗北となった。戦功を焦ったことが敗因と言われているが、紀州・山口一族のお菊による密書もれの伝説などもあり、諸説

を願って、本陣跡近くには市場稻荷神社が建つ。毎年年末になると、数丁にわたって歳の市が開かれ、泉南市の礎となったようだ。熊野街道は大阪商人を呼び寄せた交易街道でもあった。

ここから一気に大阪最後の宿場、山中宿のある山中溪駅の前立つ。宿の石畳みの道

を3000ほど進むと、安から鎌倉時代には熊野詣での客でにぎわい、川沿いに宿が建ち始めた。江戸時代の紀州徳川藩参勤交代時に、旅籠も本陣を含めて二十数軒あり、近隣の道隣接藩との交易、戦いの道、喜の道、夫や助人が集まるほどにぎわいだっただと、伝達などの役目があることを学んだ。

明治大橋(泉佐野市)

大行列は動く「市場」なのだ。駅裏に流れる山中川は桜の名所(次回は26日掲載予定)

冬ぶとん 秦華